



2000・11

雪たねニュース

東北版

No.274

今月の主な目次

- 乳牛への和牛受精卵移植の現状
- 酪農家ができる分娩前後の病氣予防技術
- TMR(完全混合飼料)について②
- 今秋の輸入粗飼料について
- 堆肥発酵機「沃野」ユーザー訪問
- 和牛子牛専用代用乳「くろっけ」

時の話題

水田を活用した飼料増産について

平成一二年八月三十一日仙台合同庁舎に於いて、「第一回東北地域飼料増産運動推進協議会」が開催されました。各県から自給飼料をめぐる情勢や、話題提供がなされました。今回は、岩手県の水田を利用した話題の事例を含めて紹介します。

一、基本的視点

①本県に於ける水田面積は平成一〇年度で九二、三〇〇haであり、うち、飼料作物の作付け面積は一三、六七三haとなっている。これは水田面積の一四・八%を占めており、水稲以外では最も高い割合を占めている。

②今後、水田面積は減少すると考えられるので、特に黒毛和種の増頭対策として、水田飼料作物の作付拡大と飼料調製技術の向上等により、粗飼料の自給率向上を図る事としたい。

二、具体的取り組み方策

- ①圃場条件の整備及び機械・施設の導入
 - ②農地の団地化・集積化の促進
 - ③担い手の育成
 - ④コントラクター組織による転作作物の収穫作業等の支援
- 三、事例

(丁)A岩手中央牛婦人部「転作で増やそう！モウ一頭」

紫波町では、稲作十畜産の経営形態が多く、転作田の自給飼料生産によって規模拡大を図る試みがなされた。

(一) 課題

この地域では、トウモロコシへの熊の食害や播種・収穫の時期が田植え・稲刈りの時期と重なる事から、転作田における飼料作物の作付が減少の傾向にあった。また、この地域では和牛繁殖経営は農家の婦人の力によるところが大きく、飼料作物の作付拡大のためには省力化も大きな話題となっていた。

(二) 取り組み

こうしたニーズに応えるため、和牛婦人部、農業改良普及センター、JAが一体となり、ソルガムの混播が平成九年度から試みられた。平成一〇年度には転作ソルガムの展示圃が五戸二一六aに拡大され、本格的な取り組みとなった。平成一一年度には紫波町内のソルガム作付が二六haに拡大し、近隣の三市町でも合計三・七haの作付があった。

(三) 効果

- ①食害の回避。
- ②必要な分を当日収穫すればよく、女性一人でも対応出来る(省力化)。
- ③トウモロコシと比較してコストが低くなる。
- ④トウモロコシと比較して繊維分が多く、カロリーが低いので繁殖和牛向き。

四、今後の課題

紫波町における二年目の圃場雑草防除と虫害が課題とされた。

(東北事業部長・内山幹夫)